

\*\*\*\*\*

# 体育史学会 会報

Japan Society of the History of  
Physical Education and Sport

No. 222, 2018. 8. 8.

\*\*\*\*\*

体育史学会事務局  
<http://www.taiikushi.org>

〒245-8650  
横浜市泉区緑園 4-5-3  
フェリス女学院大学国際交流学部  
和田浩一研究室内  
Tel : 045-812-4287  
[taiikushi\\_office@taiikushi.org](mailto:taiikushi_office@taiikushi.org)

事務局への連絡は、なるべく  
e-mail をご利用下さい。

## I. 日本体育学会第 69 回大会における企画

日本体育学会第 69 回大会は 2018 年 8 月 24 日（金）から 26 日（日）まで、徳島大学とあわぎんホール（徳島駅近く）において開催されます。専門領域体育史では、キーノート 2 本を実施します。

### 1. 専門領域体育史キーノート 1

日 時：8 月 24 日（金）13:00～14:00

テーマ：板東俘虜収容所の現代性

演 者：山田 理恵（鹿屋体育大学）

司 会：竇學 淳郎（大阪成蹊大学）

### 2. 専門領域体育史キーノート 2

日 時：8 月 24 日（金）14:15～15:15

テーマ：体験としての戦後日本の体育に関する研究・時代区分の問いかけ

—— ドイツ近代体育・スポーツ史研究者からの問題提起

演 者：成田 十次郎（筑波大学・高知県立大学名誉教授）

司 会：有賀 郁敏（立命館大学）

## II. 日本体育学会第 69 回大会における情報交換会について

2018 年度総会でお知らせしたとおり、日本体育学会第 69 回大会の期間内に、以下の内容で情報交換会を開催いたします。山田理恵会員（鹿屋体育大学）には会場の予約にあたり、たいへんお骨折りいただきました。ここに感謝申し上げます。

日時 8 月 24 日（金）18:30～20:30

会場 居酒屋とくさん 宴会用個室（～40 名）

徳島市寺島本町西 1 丁目 42 EBISU ビル、電話：088-654-1930

徳島駅から徒歩 2 分

会費 6,000 円（学生：2,000 円）

★ 申し込み締切日：8月20日（月）13:00

情報交換会への参加を希望される方は、申し込み締切日時までに、以下の要領でお申し込みください。みなさまからの早めの申し込みを、心からお待ちしております。

申込先：体育史学会事務局（和田）

メール：taiikushi\_office@taiikushi.org

※. メール本文に「氏名」「学生会員・非学生会員の種別」を記載してください。

### III. 体育史学会第7回大会の報告

体育史学会第7回大会は新井博理事（日本福祉大学）と來田享子理事（中京大学）のお世話により、5月12日（土）および13日（日）の両日、中京大学名古屋キャンパスにおいて開催され、一般研究6演題の発表と体育史研究・研究方法セミナーが実施されました（参加者：60名）。また1日目の夕方には、中京大学名古屋キャンパス「プレジール」にて、情報交換会を行いました（参加者：53名）。

#### 〔一般研究発表〕（発表順）

- 1) 武道教員の資格取得状況：埼玉県にみる武徳会称号（教士、錬士）の取得状況との比較  
古川 修
- 2) 戦前の武道教員養成校における卒業生の就職先動向：昭和13年度の各学校の卒業生名簿を中心に  
佐藤 宏拓穰（柏木学園高等学校）
- 3) 明治後期における英国田園都市構想の日本への伝播と「間時利導（かんじりどう）」に関する研究：西欧のレジジャー・レクリエーション計画・施設の日本への受容をめぐって  
川村 若菜（福岡教育大学大学院）
- 4) 国際バドミントン連盟初期における国際的な運営の確立（1934-1939年）  
鷗木 千加子（甲南大学）
- 5) 植民地樺太のスポーツ：『樺太日日新聞』から捉える植民地におけるスポーツの一側面  
富田 幸祐（日本体育大学オリンピックスポーツ文化研究所）
- 6) 東京パラリンピック大会（1964）の記録映画  
崎田 嘉寛（広島国際大学）

#### 〔体育史研究・研究方法セミナー〕

蹴鞠口伝書読解方法について

—— 江戸初期蹴鞠書『中撰実又記』研究から地下外郎派蹴鞠復元へ向けて

演 者：村戸弥生（石川工業高等専門学校）

司 会：山田 理恵（鹿屋体育大学）

#### IV. 体育史学会総会（2018年度）報告

2018年度体育史学会総会を、第7回大会終了後（5月13日・日）に、中京大学名古屋キャンパスで行いました（参加者：31名）。特記すべき報告事項は、次の2点です。

- 1) 2018年度総会での報告後に、全会員のメールアドレスを登録してメールマガジンを運用していくこと。（専門領域の各種手続きを委託されている体育史学会が、日本体育学会に登録されている会員メールアドレスを各種連絡に利用することについては、日本体育学会の総会ですでに了解が得られています。なお7月20日からこの方法で、メールマガジンを運用しています。）
- 2) 2020年9月に日本で開催予定の国際学会「International Convention on Science, Education and Medicine in Sport」に、体育史学会として参画すること。（6月27日にICSEMIS2020運営委員会から、ICSEMIS2020（仮）の日程と会場が決定したとの連絡が入りました。日程：2020年9月8日（火）～12日（土）、会場：パシフィコ横浜ノース）

その後、2017年度収支決算報告（案）、2018年度事業計画（案）、2018年度予算（案）が審議され、すべて承認されました。

総会の記録については、体育史学会ウェブサイトの「会員専用ページ」で案内する予定です。パスワードはメールマガジンでお知らせします。

総会の最後には、今年度から始まった2018年度の「体育史学会研究助成」対象者と「体育史学会学会賞（若手研究奨励賞）」受賞者の発表があり、大久保会長から通知書/賞状が授与されました。

#### ◇2018年度体育史学会研究助成

- ・ 麦媛「香港における1964年第18回オリンピック競技大会（東京）に関する報道と認識」
- ・ 藤川和俊「日本の体操科における「技術」習得をめぐる問題」

#### ◇体育史学会学会賞（若手研究奨励賞）

※ 対象：『体育史研究』第35号（2018年3月発行）掲載論文

- ・ 工藤龍太「近代武道・合気道の形成過程：植芝盛平の大東流合気柔術の修行過程に着目して」

#### V. 「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の機能の存続を求める要望書」の提出について

7月31日、日本スポーツ体育健康科学学術連合（以下、学術連合）の代表者とともに、スポーツ庁の鈴木大地長官と独立行政法人日本スポーツ振興センターの大東和美理事長を訪問し、「秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の機能の存続を求める要望書」を手渡しました。なお要望書の提出は学術連合の阿江代表と、本学会理事でもある来田学術連合副代表のご尽力により実現したことを申し添えます。（要望書は学会ウェブサイトにアップロードしています）

訪問先 スポーツ庁、日本スポーツ振興センター

訪問者 阿江学術連合代表、来田学術連合副代表、和田体育史学会事務局長

## VI. 『体育史研究』編集委員会より

『体育史研究』第36号（2019年3月発行予定）への投稿をお待ちしています。第36号の投稿締め切り日は、2018年9月30日です。

なお、『体育史研究』への投稿の受付と審査は年間を通して行われ、各年度の投稿締切日は9月末となっています。詳しくは、『体育史研究』投稿規定（『体育史研究』最新号、または学会ウェブサイト〔「体育史研究」→「投稿・編集規定」〕）をご覧ください。

### 『体育史研究』への投稿の宛先

#### 1) メールでの投稿

体育史学会事務局 : [taiikushi\\_office@taiikushi.org](mailto:taiikushi_office@taiikushi.org)

#### 2) 郵送での投稿

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 3-11

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

秋元忍研究室気付 『体育史研究』編集委員会

以上